

京都教区時報

カトリック京都司教区
広報委員会

京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

<https://www.kyoto-catholic.net/>

第5回 奇跡の材料を差し出しましょう

今年の大塚司教の年頭書簡を読んで、私も希望の巡礼者になれることを改めて気づかされました。特に具体的に上げられている18課題を見ると、私も幅広い活動ができるのではないかと、やる気が芽生えてきます。その気持ちをどうやって他の人に伝えればよいのでしょうか。

私自身、小さな教会の担当司祭として、皆と一緒に聖年の巡礼の道をどのように歩むことができるのかを考えます。誰かと共に巡礼をするのであれば、まずその人の年齢、健康、体力が、巡礼の実りに大きく影響します。

私が担当している共同体は、平均年齢が高く、退職をして年金暮らしの方が多くおられます。毎日のニュースを見て、困っている世界を前にしても、自分にはどうしようもないと無力さを感じてしまいます。同じように感じている人に、この聖書の話の思い出してくださるように呼びかけます。ヨハネ6・1-15の、イエスが大麦のパン五つと魚二匹で、五千人を満腹になるまで食べさせたことが書いてある箇所です。弟子たちはあんな状況の中で、諦めながら「ここに大麦のパン五つ

2025年 司教年頭書簡

すべての人と

希望の巡礼者となろう

を受けて



と魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう」と言います。しかし「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた」。

私たちは大きな問題を前

にすると、自分の無力さを感じてしまいます。弟子達のように。しかし、何の役にも立たないと思われた大麦のパン五つと魚二匹が、イエスの手によって、奇跡を行うための材料となりました。

この聖年で神様が私たちに呼びかけておられるのは、大きな課題を前に無力さを感じても、自分が差し出せるものを差し出すことです。自分はスズメの涙程度に過ぎないと思うかもしれませんが、それが材料となり、イエスの手を通して奇跡が行われ、皆が満たされると私は信じています。皆さん、恐れることはありません。自分に合う巡礼の道を探し求めながら歩みましょう。イエスは私たちの力です。

三重北部ブロック担当司祭
グアダルペ宣教会

フェリペ クエバス



7
2025



第267代教皇レオ十四世 選出



2025年5月8日、コンクラールベ第2日、4回目の投票で第267代教皇に選出された新教皇レオ十四世は、サンピエトロ大聖堂バルコニーに姿を現し、サンピエトロ広場に集まった人々とインターネット中継を視聴する世界の人々に向けて最初の挨拶を行った。挨拶はイタリア語とスペイン語で行われた。終わりに「アヴェ・マリアの祈り」が唱えられ、最後に「ローマと全世界へ(Ubi et ordo)」の祝福がラテン語で行われた。



あなたがたに平和があるように。
愛する兄弟姉妹の皆さん。これが、神の民のためにいのちを与えた、よき牧者である、復活したキリストの最初の挨拶です。わたしもこう望みます。この平和の挨拶が皆さんの心に入りますように。皆さんの家庭に、どこにいたとしてもす

べての人に、すべての民族に、すべての地に届きますように。あなたがたに平和があるように。

これが復活したキリストの平和です。謙遜で、忍耐強い、武器のない平和、武器を取り除く平和です。この平和は神から来るものです。神はわたしたち皆を無条件で愛してください。教皇フランシスコがローマを祝福された、弱々しいけれども常に勇気に満ちた声が、今もわたしたちの耳に残っています。

ローマを祝福された教皇は、復活祭の朝、世界に、全世界に祝福を与えました。同じ祝福を繰り返すことをわたしに許してください。神はわたしたちを愛してください。神はわたしたち皆を愛してください。悪が打ち勝つことはもはやありません。わたしたちは皆、神のみ手のうちにあります。それゆえ、恐れることなく、神と、また互いに手と手をつないで、前に進んでいきましょう。わたしたちはキリストの弟子です。キリストはわたしたちに先立って歩んでくださいます。世界はこの方の光を必要としています。人類は、神とその愛に達するための橋として、この方を必要としています。皆さんもわたしたちを助けてください。対話と出会いによって互いに橋をかけるために。わたしたちが皆、一つに結ばれて、常に平和のうちにある唯一の民となることができるために。教皇フランシスコよ、ありがとうございます。

ローマ、イタリア、全世界の兄弟姉妹の皆さん。わたしたちはシノドスの教会になることを望みます。それは、道を歩む教会、常に平和を求め、常に愛の業を求め、とくに苦しむ人に常に寄り添うことを求める教会です。

それでは、皆さんとともに祈りたいと思います。この新しい使命のため、全教会のため、世界の平和のために祈りましょう。そして、特別な恵みを聖母マリアに願います。

新教皇レオ十四世

ロバート・フランシス・プレヴォスト
〈聖アウグスチノ修道会〉略歴

前教皇庁司教省長官

チクラヨ（ペルー）名誉大司教
1955年9月14日 シカゴ（アメリカ合衆国イリノイ州）生まれ（69歳）

1982年 司祭叙階

1984年 ヘル、ピウラのチュルカナスでの宣教活動のために派遣される

2014年 教皇フランシスコによりチクラヨ教区使徒座管理者に任命され、司教に上げられ、スファル教区名義司教となる

チクラヨ司教

2015年 教皇フランシスコにより教皇庁聖職者省委員に、2020年に司教省委員に任命される

2020年 教皇フランシスコによりカヤオ教区使徒座管理者に任命され、教皇フランシスコによりサンタ・モニカ助祭枢機卿として叙任・公表される

2023年

2023年



「求道者に同伴する信徒」と 「信徒カテキスタ」の祝祭

4月26日(土)

復活祭後の週末、聖年を祝う「祝祭」を合同で行いました。京都、滋賀、奈良、三重の12小教区から24人が参加しました。青空が広がる快晴のもと、会場となった唐崎メリノールハウスでは、琵琶湖と新緑、そして満開のハナミズキが参加者を迎えてくれました。



はじめに、数日前に帰天され、この日葬儀ミサが行われる教皇フランシスコへの感謝と永遠の安息を皆で祈りました。奉仕者のフォローアップを兼ねたプログラムは、午前に大塚司教が「求道者に同伴する信徒」「信徒カテキスタ」養成の経緯と二つの役割をあらためて確認。講座を受講後、時間が経っていることもあり、参加者にとって貴重な学び直しの時となったようです。

昼休みは、久しぶりに会った人や初めて会う人と一緒にお弁当を食べて談笑し、レクリエーションにチャレンジしたりして交流を深めました。

午後はエミリオ神父（滋賀ブロック担当）の講話から始まりました。司牧的視点から、特に活動に関わる問題―担当司祭との関わり、役割に上下があるのかのような理解、任命された人だけに役割を限定する―は教会内部を重視する傾向に原因があると言われ、社会や教会の門を叩く人の必要にもっと目を向けて「出向く教会」となっていくように、とアドバイスをくださいました。参加者たちは熱心に講話を聴き、その後、小グループに分かれそれぞれ活動についての思いを分かち合いました。



エミリオ神父

この日の最後に皆で捧げたミサは、「主がこの共同体の真ん中におられることを



希望の巡礼者 びわ湖のビーチで 〇〇をさけぶ

昼休みレクリエーション。琵琶湖に向かって思い思いに叫んで盛り上がりました。「パパさま、ありがと～」「ガザに平和を～」「イエスさまバンザ～イ」最後はみんなで声を合わせて「主の平和～！」笑顔溢れるひとときでした。

感じられた」という感想が聞かれるように美しかったです。閉祭には♪「希望の巡礼者」（聖年の賛歌）を歌い、参加者の力強い歌声が聖堂に響きました。自然豊かな環境の中で仲間と過ごした聖年の祝祭は、ともに希望をもって歩む力を新たにいただいた一日となりました。

文責 福音宣教企画室



「弱さの中でこそ見えるさいわい」 病者高齢者奉仕講座 5月9日

今年の病者高齢者奉仕講座は「共同体づくり」を大きなテーマに置き、2回のシリーズで行います。

1回目は教区司祭の北村善朗神父に、ご自身の体験からの気付きを分かち合っていたきました。



「奉仕（サービス）」は「お互いさま」

奉仕というと、奉仕する側のことだけを考えがちであるが、当然そこには奉仕を受け取る人の存在があり、奉仕する人と受け取る人があって初めて奉仕が成り立つ。

奉仕する人と奉仕を受ける人に上下はない。今、元気に奉仕をしている私たちも、いつか奉仕を受ける立場になる。奉仕の現場では「奉仕する」側が優位になり、「奉仕を受ける」側は負い目を感じる、という傾向が見られる。奉仕する際に、相手の弱さ、できないのを見て「かわいそうだ」と感じ「してあげる」という上から目線の意識が生まれ、奉仕を受ける側には「何もできない」という罪悪感が生まれてしまう。そうならないためには、奉仕する側も奉仕を受け取る側も「お互いさま」という気持ちが必要。奉仕する人たちが、研修などで奉仕を受け

取る体験をしてみることが大切かも知れない。

うつを患って

うつは意志の病気である。意志はあるができない。「私が…する」という意志が切れていく。やがてやりたいこともなくなり、祈ることもできず、苦しさの中、眠ることもできなくなる。そして、全世界から見捨てられたという孤独にさいなまれる。

通院と休養、投薬に加え大切だったのは、信頼できる人のやさしさと言葉であった。

「私」を脇へ置く 母の認知症を通して

認知症は心の病ではなく、記憶の障がいである。現在のことから忘れていき、記憶が過去にさかのぼる。やがて自分の名前も顔も分からなくなり、「私」を失っていく。また時間も分からなくなり、「今」しかなくなる。「私」がなくなり、「今」しかなくなると、どこかへ帰りたいくなる。これは神から出て神のところへ帰る、という人間の本質の現れではないかと思う。「私」がなくなり、「今」だけを生きているその様子は、神の国の先取りのようである。

教会で「私が」「私が」という場面が多くありはしないだろうか。「私」という意志や記憶が人間を苦しめている。

「今」だけを生き、「私」がなくなった時、「いのち」だけが残る。イエスの教え、「神の国」は「お互いさま」という人のつながり、ぬくもりではないだろうか。自然界が「私」なしに共生し、「いのち」と「いのち」が触れ合うようにつながっているように、「私」を主語にしないで、「私」を下ろして、「お互いさま」を生きていくことができる教会であってほしい。

社会では「できるように」「強く、大きくなる」ことだけを教えられる。「できなくなる」「弱く、小さくなる」とは教えてくれない。それを教えてくれるのが病氣や老いである。せめて教会は、老いや病氣がそのまま肯定され、生きやすい場所となってほしい。

そのために私たちはもっと心の目を開いて、聖書はもちろん、身近な出来事から学ぶことが大切ではないか。



質疑応答で北村神父は、「奉仕を受ける練習」について、「実はミサの中で私たちはそれを練習している」と言われました。それを意識するだけでも奉仕についての理解が変わって来るのではないかと、言われ、「私」と「イエス」の関わりを見直すことの大切さを指摘されました。



こんにちは アベ神父さん



インドネシア国旗



ペトルス ファベル
パティマンゴエ神父

京都北部ブロック
協力司祭
レデンプトール会
生年：1990年
叙階：2021年

こんにちは。私はペトルス ファベル パティマンゴエと申しますが、皆さんからは「アベ神父」と呼ばれています。

インドネシアの東フローレス出身で、1990年8月2日に生まれました。2012年にレデンプトール会に入会し、司祭になるためにインドネシアで11年間にわたり哲学と神学を学びました。そして2021年3月19日に司祭に叙階されました。叙階後は、約2年間インドネシアでレデンプトール会のノビシアトで養成スタッフとして働きました。

2023年6月に来日し、約2年間、東京の日本語学校で日本語を勉強しました。

今年3月には、京都府の舞鶴にあるレデンプトール会の修道院に移動し、新しい宣教の場で生活を始めました。まだ日本語は勉強中ですが、皆さんと心を通わせながら共に信仰を深めていきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

聖年 希望の巡礼者

青年センターのイベントで巡礼しています！

運営委員会、春プロジェクト、YESなど、青年センターでは年間を通して、イベントを行っています。今年はそのイベントを、京都教区内の聖年の巡礼指定教会をお借りして行っています。

運営委員会では、青年センターの運営について会議していますが、運営委員以外の方も、青年であればオブザーバーとして参加できます。運営委員会にオブザーバー参加し、一緒に巡礼指定教会に巡礼に行きませんか？

運営委員会、またはその他イベントで、みなさんと一緒に巡礼できるのを楽しみにしています！



写真は、春プロジェクトで奈良教会に巡礼に行った時のものです。



青年センターあんでな

お知らせ

司 教

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



教 区

広報委員会

教区時報9月号の原稿締切日は7月21日㊤です。

下記までご連絡ください。

koho@kyoto.catholic.jp

大阪高松教会管区

大阪高松教会管区部落差別人権活動センター
学習会「今日の部落問題の有り様と社会」

講 師：黒川みどりさん

日 時：7月21日㊤㊦ 14:00

場 所：サクラファミリア（カトリックセンター）
4階会議室 大阪市北区豊崎3-12-8

参加申込：部落差別人権活動センター
bukatu@kyoto.catholic.jp
075-223-3340 ㊤㊦㊧ 10時-17時

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

日 時：7月13日㊤ 14:00 聖歌練習

7月26日㊤ 17:30 練習後集会祭儀奉仕

場 所：河原町教会聖堂 団員募集中

問合せ：075-951-4283 則武 隆

コーロ・チェレステ（女声コーラス）

練 習：7月10日㊦ 10:00 24日㊦ 10:00

場 所：河原町教会2階楽廊

新会員募集中

問合せ：075-561-5971 駒井和子

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話表現学習会（聖書と典礼）

日 時：7月15日㊦ 13:00~15:00

場 所：河原町教会地下ヴィリオンホール

問合せ：鎌田 修 kamadaosamu@gmail.com
090-1976-5636

心のともしび

ラジオ番組案内（全国34局で放送）

7月のテーマ「ためらい」「居場所」

KBS京都 ㊤~㊦ 朝5:55

㊧ 朝5:15

ラジオ関西 ㊤~㊦ 朝5:35

㊧ 朝6:05

毎日放送 ㊤~㊦ 朝5:45

㊧ 朝4:55



カトリック京都働く人の家

読書会・遠藤周作「イエスの生涯」

日 時：7月13日㊤ 九条教会9時ミサ後

場 所：九条教会内働く人の家

問合せ：瀧野正三郎 090-8207-1831



2025聖年公式マスコットキャラクター
ルーチェ（イタリア語で光の意味）

皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、カ障連大阪フレンドリー点字部・笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。

Tel・Fax/072-722-0271